



日航ジャンボ機墜落事故から37年

事故対策として策定したルールの一方向的な変更など、
今のJR東日本の安全への姿勢は危機的状況だ！

8月12日、日航ジャンボ機墜落事故から37年を迎えました。

事故から37年を迎えましたが、今年6月には、台風の影響により崩落した当時の現場付近から酸素マスクが発見されました。現場では昨年もエンジンの部品が発見されています。

日本航空社員は「発見された部品は、『安全に対する取り組みをしっかりとしているか』というメッセージを我々に発してくれているように感じる」と述べています。

鉄道の歴史は事故の歴史であり、**安全対策に終わりはありません！**現場では相次いで発生している事故・事象に対して「危機的状況だ」と悲痛な声が上がっています。人材育成や対策の在り方など、安全対策・事故防止に向けた議論を職場から創り出しましょう！

安全分科会で議論を積み上げ、全ての仲間の力で
誰もが安全に働けるJR東日本・安全文化を再構築しよう！